

経営一転語 86 企業の「社会的責任」と「従業員に対する人間的責任」

会社は、絶対につぶしてはいけません。好況であろうが、不況であろうが、いつ、いかなる場合においても、利益を計上し、存続しなくてはならないものなのです。

これが、経営者の最低限の「社会的責任」です。自分の会社に働く従業員の生活を保証するという意味での「社会的責任」なのです。

しかし、社会的責任は、これだけでは不十分です。会社は、社会に貢献するという責任を持っているのです。そのためには、しっかり利益を上げて、繁栄し、税金を払わねばなりません。

つまり、「繁栄の義務」があるのです。繁栄していることが、社会がその会社を必要としている証拠と言えましょう。

これが、企業の社会的責任です。

次に、「従業員に対する人間的責任」もあります。「とにかく食べていければいい。」「もうこれ以上大きくしないでいい。ごちんまりやるのが私の主義だ。」という社長もいます。

ひとりで経営するなら、このような考え方で結構でしょう。しかし、社長がこのような考え方でいたら、従業員は浮かばれません。

人間は、生活の向上を願い、自己の才能を発揮したいと願っているものです。一人の人間としての「自己拡大」の欲求です。

これは、会社を発展させなければ、従業員の自己拡大の欲求は満たされないのです。いったん、経営者を頼って入社してきた人間の欲求を満たしてあげようとしないのは、経営者として失格と言えましょう。

経営者は、以上のような「社会的責任」と「従業員に対する人間的な責任」の両方を背負っているのです。そのためにも、会社として長期的繁栄を実現する義務があるのです。